

名古屋市からのお知らせ

毎年8月は
「多文化共生推進月間」です！

多文化共生とは「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的差異を認め合い、対等な関係を築きながら、地域社会の構成員として共にしあわせに生きていくこと」です。

名古屋市には約86,000人(2020年6月現在)の外国人住民が暮らしていて、国籍の数も150と、とても多様性に富んでいます。こうした中、名古屋市は、すべての市民が安心・安全に暮らしながら、多様性を活かして活躍することができる多文化共生都市の実現を目指し、「第2次名古屋市多文化共生推進プラン」に基づき、様々な事業を実施しています。



「第2次名古屋市多文化共生推進プラン」について詳しくは、こちらをご覧ください。



ヘイトスピーチ、許さない。

～違いを認め合い、互いの人権を尊重し合う社会を築くために～

最近、デモやインターネット上で、特定の民族や国籍の人に対して、それだけを理由に、一方的に日本社会から追い出そうとしたり、危害を加えようとする内容の言動が見られ問題になっています。

例)「〇〇人は出て行け」、「〇〇人は殺せ」
差別的な意味合いで昆虫や動物に例えるものなど
こうした差別的な言動は、「ヘイトスピーチ」といわれ、人としての尊厳を傷つけるだけでなく、差別意識を生じさせることになり、あってはならないものです。

平成28年には、「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」いわゆる「ヘイトスピーチ解消法」が成立し、施行されました。

「ヘイトスピーチ」をなくし、互いの人権を尊重し合う社会をともに築きましょう。



ヘイトスピーチによる被害など、人権に関する問題でお悩みの方はこちらで相談できます。くわしくはこちらをご覧ください。

みんなの人権110番 ☎0570-003-110



ぶらり
ライブラリー

特に目的があるわけではないけれど、ぶらっと来てみたら、気になることに出合える場所。このコーナーではNICライブラリーと、ライブラリーの本をご紹介します。
NICライブラリー 名古屋国際センタービル3階 9:00~19:00 月曜休館

「時間ときっかけ」

新型コロナウイルスの影響で、在宅勤務・学習の導入やさまざまな手続きのオンライン利用が奨励され、自宅を過ごす時間が増えた人は多かったのではないのでしょうか。

グローバル化によりもたらされたとも言えるこの世界共通の苦難の中、世界中で他国の動向が注視されました。日常的に各国の情報を、これほどニュースとして見続けたことがこれまでであったのでしょうか。感染者数、拡大状況に併せて、各国の文化や習慣、多様な価値観を垣間見る場面も多々ありました。残念ながら亡くなられた方が増えるにつれ、葬儀や弔い方法についての報道も増え、それぞれの文化に息づいている人生観・死生観などを知る機会となりました。

そんなニュースを見ているうちに、「アフリカのことわざ」という1冊の本を思い出しました。この本は、人生、仕事、愛、道理についてアフリカの各国から集められたことわざが、わかりやすい説明と共に紹介されています。日本にも同じようにことわざが存在するもの、恐らくその地で暮らさなければ想像すらつかないものなどいろいろあります。

今までに経験したことのない不確かな社会を生きることになった私たちですが、先人たちの言葉に耳を傾けながら、

改めて人生について考えるきっかけになるかもしれません。その他、ライブラリーには「インドのことわざ」「誰も知らない世界のことわざ」「世界の名言名句1001」などもあります。ご利用ください。



クイズ

Q.「急いで事を仕損じる」と同義のアフリカのことわざ「ゆっくりゆっくり、〇〇は熟れる」とあります。〇〇に入るのは何でしょう？

Leader's Eye
愛 リーダーズ アイ

途上国で現場を持って活躍している、地域の国際協力NPO/NGOのリーダーにお話を伺います。

～国際協力・ケニア編～

子どもたちが安心して食事ができ、
勉強できる場所を

マゴソスクールを支える会
事務局長 松岡 英輝さん



リーダーズ・メッセージ

情報過多にならず、現地で一次情報に触れよう！

ケニアの首都ナイロビに100～200万人が暮らすキベラスラムがあります。ここには、干ばつや強盗により地方を追われた人や両親を病気で亡くした子どもなど様々な背景を持つ人が劣悪な環境の中、暮らしています。その中で「子どもたちが安心して食事ができ、勉強できる場所を」と創られた幼稚園児から8年生までの子どもたちが通うマゴソスクールがあります。この学校を支援する「マゴソスクールを支える会」の事務局長、松岡英輝さんにお話を伺いました。

いつ強制退去を告げられてもおかしくないキベラスラムに暮らす人たちが、現状を受け入れ、どう生きていくか、前向きに考える姿に心を打たれ、マゴソスクールの人たちと活動を始めました。2014年12月、キベラで大火災があり、多くの人々が家を失い、マゴソスクールも半壊しました。マゴソスクールは近くに暮らす人々の避難所にもなりましたが、翌年、日本のNPO団体からの資金援助が打ち切れ、経営難に見舞われました。そんな中、私のように個人的にマゴソスクールを応援していた人たちが集まり、学校を支えるために2015年に同会を設立しました。SNSでの広報や全国のイベントに同行し、募金やサポーターを募り、今では400名程のサポ-

ーターがいます。私たちは、学校運営費の全般を支えています。特に給食支援を大切にしています。給食が一日の唯一の食事である子どもたちが多く通っているからです。ウェブサイトには専用の窓口を開設、応援してくださる店舗などに給食支援の募金箱を設置し、支援を頂いています。また、校内に併設された職業訓練所で作られた布製品、スラムで暮らす職人たちから直接買取したビーズ細工やバナナの葉の工芸品を日本でアフリカ文化を伝えながら販売も行っています。現在は卒業生の高校進学支援に力を入れています。ケニアの公立高校は全寮制のため、年間12万円程の学費が必要です。子どもたちの両親の多くは、教育を受けられなかったため、教育への思いが強く、学費を何とかして稼ごうとしますが、すべてを賄うことは難しいのが現状です。キベラ出身というだけで差別を受けることも多く、マゴソスクールは卒業生の相談の場にもなっています。今後も彼らの成長を支えていきたいです。



▲マゴソスクールに通う子どもたち

マゴソスクールを支える会

Web Facebook 検索
Twitter @magosojp

現在、ナイロビはCOVID-19のため、学校が休校中です。現地の最新情報はSNSで発信しています。(取材:2020年6月)

姉妹友好
都市の広場

名古屋市とトリノ市は2005年5月27日に姉妹都市提携を結び、今年度15周年を迎えました。今回は、15周年を記念し、配信した動画についてご紹介します。



名古屋の象徴「シャチ」と、トリノの「雄牛」をイメージした姉妹都市提携記念のロゴマークです。

配信動画の概要

名古屋市・トリノ市が姉妹都市提携した5月27日、名古屋市長と在大使館総領事がお祝いのメッセージを交すとともに、新型コロナウイルス感染者へのお見舞いと今後の交流が一層深まるよう、市民に発信しました。また、「食」を中心としたイタリア文化の紹介をしました。本企画を通して市民よりお見舞金やメッセージを募り、イタリア・トリノへ届けます。



▲撮影・配信の様子



▲紹介されたトリノ料理

- ロシア風ポテトサラダ
- ボルチーニのリゾット
- 仔牛のトンナートソース
- 牛肉のタリアータ

配信内容

- 名古屋×トリノ姉妹都市15周年と番組制作趣旨の説明
- イタリア文化紹介VTR
- 河村市長メッセージ
- 在大使館総領事メッセージ
- 市内のイタリア料理店によるトリノ料理の紹介
- 市民からのメッセージ紹介
- お見舞金及びメッセージや動画募集告知

見逃した方はコチラ！

動画は、現在「YouTube(名古屋日伊協会チャンネル)」にて配信していますので、ぜひご覧ください。



URL : https://www.youtube.com/watch?v=KrE7inX-BQY

年末まで、名古屋日伊協会のウェブサイトにてお見舞金および応援メッセージ・動画を募集しています。ご協力をお願いします。

名古屋姉妹友好都市協会の公式ウェブサイト・フェイスブックでは、姉妹友好都市にちなんだイベント情報などを発信しています。ぜひご覧ください。

Web http://nsca.gr.jp/

Facebook nagoya.sistercities 検索